

重点目標	a 確かな学力定着のための授業充実			
重点課題	1 校内授業研修の実施	2 生徒による授業評価の実施とその活用	3 習熟度別授業(数学)	4 シラバスの活用
現状	・各教科、年1回の研究授業を実施。校内の公開授業を年2回実施。	・各学年で多少バラツキがあるが、各項目だいたい良い評価ができる。	・2クラス3分割授業を実施している。	・年度初めの入口指導で学習法の指導で活用。必要に応じて学習の流れや定着度などの確認に活用。
達成目標	・研究授業や公開授業の機会を利用して、指導法について研究をし、その後の授業に活かす。	・各項目の高評価が80%以上の魅力ある授業を目指す。	・各グレードに応じた学力のレベルアップ。	・シラバスで随時進度を確認し、準備させるとともに自己評価による学習の動機付けとする。
具体的な取り組み	・研究授業実施後の反省会を通して、その後の授業をより質の高い授業を目指した。 ・公開授業においては、その授業で取り上げられたアイデアや工夫などをその後の授業に取り入れた。	・授業アンケート結果を検討し、その後の授業を改善し、より質の高い授業を目指した。	・各グレードに応じた問題集を使用し、ACグレードで少人数授業を実施。	・シラバスに沿った進度が行われているか、随時確認を行う。 ・学習の長期計画を立てる際に活用させる。
評価	・事前に綿密な教材研究を行い、良い研究授業が実施できた。 ・公開授業の見学が少なかった。 <div style="text-align: right;">B</div>	・ほぼ当初の目標を達成することができた。 ・授業アンケートによる授業満足度では概ね80%を超える数値が見られたが、目標が達成できなかった科目も見られた。 ・授業アンケート結果を指導方法の見直しに生かすことができた。 <div style="text-align: right;">B</div>	・各グレードに応じたレベルの授業ができ、各目標に応じた学力をつけた。 ・栃高評価 = 74%(3年) <div style="text-align: right;">B</div>	・ほぼシラバス通りに授業およびテストが実施できたかについては、教科によってバラツキが見られた。 ・評価や動機付けに繋がる指導には至っていない。 <div style="text-align: right;">B</div>
学校関係者評価	A ・塾依存の高い時代に、栃高は学校(授業)を大切に学習に取り組んでいる様子が見られる。 ・栃高はかつて数学が上位者に合わせた授業やテストが行われていたが、習熟度別授業の実施は、手厚い指導への取り組みの一環として、高く評価したい。 ・習熟度別編成の基準や学習内容など、生徒および保護者への説明をしっかりとしてほしい。			
次年度への課題	・重要観点を明確にし、効率の良いかつ質の高い授業を目指す。 ・公開授業への積極的な参加。研究授業の早期実施。	・授業アンケートについての分析手法の検討。 ・さらなる授業研究をして、分かり易い授業、学習意欲を増す授業を心掛ける	・生徒の実力の変動への対応とモチベーションを維持し続ける工夫。	・シラバスの評価。 ・生徒が予習しやすいよう、進度をシラバスに合わせていく。生徒への連絡を速やかに行う。 ・自己評価をきちんとさせる。

評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

重点目標	b 自主的な学習態度の育成		
重点課題	5 家庭学習時間の確保	6 土曜講習の充実	7 長期休業期間の学習計画
現状	・学習時間の確保，特に休日の学習時間が不十分である。	1年：全員講習はテストが中心、希望講習は発展的内容が中心 2年：国数英3教科について、平常授業の補充という観点から実施。 3年：1学期は国数英を中心に、発展・標準・基本の内容で実施している。2学期は理科および地歴が加わる。	1年：計画は立案するが、実施がままならないことが多い。 2年：長期休業前に学習計画を立てさせている。 3年：得意分野の伸張，弱点の克服を目指し，計画的な学習に取り組めるよう指導している。
達成目標	1年：平日3時間 休日6時間 2年：平日4時間 休日7時間 3年：平日5時間 休日8時間	1年：全員1回/月以上、希望12回/年以上、補習5回/年以上、栃高評価80%以上 2年：3教科をバランスよく実施し、生徒の学力伸長に寄与する。 3年：5教科をバランスよく実施する。	1年：休業中の平均学習時間5時間/日 2年：生徒が立案した計画をきちんと実行させる。 3年：進路指導委員会の話題が反映されるように指導する。
具体的な取り組み	・教科ガイダンスの充実 ・予習復習の習慣化の指導 ・的確・適時の面談指導 ・目的意識を持たせる。	1年：実施内容の早期通知（各学期当初）、希望講習参加への積極的呼びかけ、講習内容の充実 2年：3教科の内容を検討し、各教科の実施内容に応じて時間割を調整する。 3年：各教科のバランスを考えて時間割を調整する。特に2学期からは地歴，理科を中心に実施する。	1年：早期計画立案指導、学習時間記録による事後指導の充実、課題の質的量的適正化、事前事後面談指導の充実。 2年：各教科から提示された課題をもとに、生徒に学習計画を立案・提出させて担任が指導助言を行う。休業終了後実施状況表を提出させる。 3年：個人面談により手厚く指導する。
評価	・取組自体はほぼ実施できたが、結果が伴っていない。 学習時間(2回調査結果) 1年：平日2時間16分 休日2時間47分 2年：平日2時間23分 休日2時間31分 3年：平日3時間42分 休日5時間29分 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin: 0 auto;">C</div>	1年：取り組みの実施回数は達成できているが、生徒の満足度はもう一步のところである。・栃高評価 = 75% 2年：担当者の都合によって、年度当初の計画通り実施できないこともあった。内容等はおおむね適切であった。 ・栃高評価 = 46% 3年：担当者の都合により、各教科のバランスが十分であったとはいえない。出遅れがちな地歴、理科への対応ができた。 ・栃高評価 = 63% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin: 0 auto;">B</div>	1年：取り組みはほぼできたが、目標時間までは及ばなかった。 学習時間概算 = 約3時間/日 2年：生徒全員が学習計画表を提出できた。また、計画表の作成を通して、学習目標を明確かつ具体的に立てさせることができ、学習に取り組ませることができた。 3年：計画表の作成を通して、自分の課題を明確にし、取り組ませることができた。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin: 0 auto;">B</div>
学校関係者評価	B	・学習時間の自己評価『C』は、達成目標自体は適正なのだろうか。また、評価基準の『現状維持』よりも、むしろ『目標が達成できなかった』の方が適切かもしれない。 ・エアコン導入で長期休業期間も登校して学習している生徒が多く、生徒や保護者にとって評判は良いようだ。	
次年度への課題	・授業および面談により、学習時間確保の重要性を気付かせる指導の徹底を図る。	・魅力ある講座内容の徹底した検討を行う。 ・適切な時期を踏まえた講習計画。	・取り組み内容の検討と各項目の質的充実 ・日頃からの計画的な学習習慣の確立。

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		
重点課題	8 三年間を見通した進路指導計画の実践	9 適切な進路情報の提供	10 模試データ分析と効果的な活用
現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し、各学年担当を中心に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報を各生徒に直接提供、あるいは教室掲示により提供している。 進路資料室の資料は充実しつつあるが、利用環境は快適とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内模試データは進路指導委員会で活用し、各外部模試のデータ分析と活用を各学年と教科に委ねている。 各学年会では分析結果を検討し、職員全体に概要を報告することにより、教科指導への活用を促している。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 1,2年次のキャリア学習を充実させる。 栃高評価の満足度 = 80%以上 国公立志望者 = 240名(1,2年) 難関大志望者 = 120名(1年)100名(2年) 最難関大志望者 = 30名(1年)25名(2年) 	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の充実と、利用環境の改善を図る。 情報を提供するだけでなく、生徒自身に必要な情報を収集させる。 栃高評価 = 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 情報ネットワークを活用した迅速な情報の提供。 課題を明確にし、教科指導および個人指導に活用する。
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 一年次からのキャリア学習(学問研究)を充実させる。 特別活動での進路学習の充実。 「キャリア教育係」の新設による、キャリア学習の充実 大学、学部学科説明会を充実させ、2年次に全員に受講させる。 1年：学年進路指導委員会の実施 2年：LHRでのキャリア学習の実践 3年：進路指導委員会を軸にした、適切な進路指導の実現 	<ul style="list-style-type: none"> 進路資料室閉鎖し、進路学習室に移動、リニューアルすることで、進路学習の環境と情報を整える。 興味・関心別の必読図書一覧を作成し、全書籍を購入の上、閲覧できる環境を整える。(図書部との連携) 校内進路指導システムの有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 模試データだけではなく、志望動向等の情報をいち早く進路指導部員・担任に提供する。 模試データの恒常的な分析体制を整える。 学年会での検討 職員会議での報告 各教科との連携 成績個票の工夫と面談での活用 LHRやSHRでの全体指導や個人面談により、課題克服に向けたアドバイスをを行う。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 大学、学部学科説明会アンケートは概ね好評だが、3年(大学)と2年(学部学科)の間でねらいにズレが生じている。 進路希望調査結果 <ul style="list-style-type: none"> 国公立 229名(1年)225名(2年) 難関 133名(1年)123名(2年) 最難関 16名(1年)27名(2年) 学校評価 生徒評価=79% <ul style="list-style-type: none"> 1年(87%)2年(74%)3年(74%) 保護者評価 = 91% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin-left: auto;">B</div>	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習室の稼働は、目標とする進路学習環境面の改善に寄与できた。 2学期まで過去問題集(赤本等)貸出し数 <ul style="list-style-type: none"> H19 = 368冊 H20 = 572冊 <u>1.5倍</u> 学校評価 <ul style="list-style-type: none"> 生徒評価=80% 1年(85%)2年(75%)3年(82%) 保護者評価 = 90% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin-left: auto;">A</div>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年においては、全体指導および個人指導について、ほぼできた。 ネットによる情報の収集と即時提供に関しては改善の必要がある。 データ分析のための体制の強化に関しては、改善が見られなかった。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin-left: auto;">B</div>
学校関係者評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の高校時代と比べると、丁寧な進路情報提供と適切な学習環境整備ができていていると思う。 外部の進路データ(判定など)に振り回されず、独自の進路指導システムにより、適切な指導ができていているのが良い。 	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> LHR等での使用資料の電子データ化。 大学学部学科説明会の持ち方の改善。 1年次のキャリア学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心別の必読図書一覧を充実。 貸し出し・閲覧環境をさらに改善する。 恒常的な情報発信への体制を整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室常駐者の確保等、体制の強化を図り、恒常的な情報分析を行う。 教科に対し教科分析の活性化を促す。

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点目標	d 読書量向上への指導の実践	e 健康的な生活のための生活習慣の確立		
重点課題	11 効果的な読書指導の実施	12 適切な健康指導および食育教育による欠席防止に繋げる指導の実施	13 心の健康増進	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 教科、学習部、進路部等に協力を求め、読書を奨励しているが、現状は呼びかけがまだまだ不十分のため、効果的な読書指導が行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 食習慣に関する全体計画を作成し当該教科、保健室中心に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談係を中心に、学校カウンセラーの指導助言を仰ぎながら、不登校生徒の対応に当たっている。 各学年においては、日常における声かけ、面談を通して生徒理解に努め学年会で情報を共有している。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 図書貸し出し数の倍増。 教科の調べ学習、小論文対策、進路に応じた資料の利用。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を健康に過ごすための適切な生活習慣を身につける指導をする。特に毎日朝食を食べる習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校入学前からの継続的な不登校の解消、および本校入学後の不登校発生ゼロを目指す。 	
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、生徒に対する読書購入希望調査(年2回)の実施。 「入試頻出評論」などの紹介および進路部による進路分野ごとの関係書籍の展示。 「図書館だより」(月1回)による新着図書や推薦図書の紹介。 「リクエストコーナー」の設置。 1年教室への「推薦図書50冊」の設置。 「多読賞」(年30冊以上)の設置。 授業において、授業内容を深め、発展的な学習へと繋がる本の紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次教科保健で生活習慣と健康について徹底指導する。 保健室利用生徒の朝食摂取状況の確認を行い健康と正しい食習慣の大切さを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任との面談や日常生活における観察を通して、不登校傾向の早期発見につとめる。 家庭との連絡、学校カウンセラーとの相談を密に行い、適切な対応に努める。 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> 図書貸し出し数は、昨年の倍増加した。 「多読賞」が生徒に浸透し始めたのか、昨年の3名を遙かに越えた。一方教科の調べ学習などの読書利用は不十分である。 1年生の教室にある「推薦図書」の利用がほとんどなされておらず、次年度への課題を残した。 栃高評価 = 生徒全体80% 1年(85%)2年(75%)3年(82%) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時や保健室利用生徒の調査結果は、ほぼ全員の生徒が毎日朝食を食べており正しい食習慣を身につけさせることができた。 一方で、運動および睡眠を含む本校の健康指導に関する生徒の意識(栃高評価)では、低い数値がでていた。 栃高評価 = 生徒全体(40%) 1年(47%)2年(32%)3年(41%) 保護者全体(63%) 	<ul style="list-style-type: none"> 校内における相談体制はある程度確立できたが、中学からの継続的な不登校状態にある生徒の問題解消に苦慮する状況がある。 充実した面談が実施できた。 各学年における不登校状態生徒数は、 1年2名(休学)2年3名 3年1名 栃高評価 生徒全体(45%) 1年(50%)2年(45%)3年(42%) 保護者全体(67%) 	
学校関係者評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書量が増加していることは良いことだ。 どのようなジャンルの本を読んでいるのだろうか？ 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の勤務する大学(国立)では学生の10%程度は鬱病だ。学生相談室を設置して、対応しているが、予約がとれないほど希望が殺到している先生もいる。 スクールカウンセラーが打ち切られる来年度はどのように対応するのか。保健室での対応はどのようになっているのか？ 重点目標に掲げていること自体評価できる。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 「多読賞」の基準の見直し。 読書環境の整備と充実。 教科、進路への協力をより強く依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士を招聘し栄養指導を実施。 保健授業において、1年次のみならず2年次においても食習慣の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校カウンセラーとの契約が切れるため、それに代わる協力体制の確立が急務。 面談のさらなる質的量的充実。 	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導			
重点課題	14 学校祭の充実	15 充実した移動教室の企画と実施	16 充実した体験活動の企画と実施	17 生徒会組織の改善と充実
現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会が主導して文化委員等生徒会組織を動かし、全員参加による学校祭を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京研修、大学見学（東北大OP参加）、スキースノーボード教室を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 県庁堀清掃（1年全員） 国際理解講演会（全校） 豪州海外研修（募集） 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒総会 自治委員会 / 各種委員会 学校祭実行委員会 リーダー研修会
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自治能力の涵養 文化的企画の充実 地域社会への発信と来校者数の増加 学校全体の一体感の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 目標参加者 東京40名 東北大100名 スキースノーボ80名 	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕活動は全員参加。 講演は積極的に聴く。 海外研修は実現する。昨年希望生徒少数で中止。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治委員会の定例化 委員会改組 クラス係の新設 新部長全員参加による研修会の実施
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会の定例化、生徒会係職員との関係強化 「文化講演会」の企画、分かりやすいタイムテーブル表をパンフレットに掲載 学校HPの充実と活用。 御聖蹟、進路資料室一般公開。 生徒実行委員による他校文化祭訪問 後夜祭企画のスリム化と全学年参加型企画の実施 	<ul style="list-style-type: none"> すべて1・2年生を対象として募集した。 東京研修は今回第1回の実施であり、事前研修を充実させ、3年生によるアシスタント(TA)方式を取り入れた。 東京研修、東北大では、グループ方式による卒業生との懇談会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所と関係を取り、事前指導をしっかりと行い、意義をよく理解させて実施する。 講演会では質問を歓迎する。 募集活動を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治委員会の会場として旧定時制食堂を固定化する 生徒会役員会を定例化し、顧問との関係強化を図る。 第2生徒会室を確保し、生徒自治活動を育む場とする。 委員会を改組し、その活発化を図る。 リーダー研修の中身の充実。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭来校者数2012名。この3力年右肩上がり。学校祭1日公開体制となって初の2000人突破。 文化講演会来場者（最大時）300人突破。御聖蹟来場者500人突破。 栃高評価 生徒全体71% 保護者90% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">B</div>	<ul style="list-style-type: none"> 参加生徒数 東京研修40名 東北大100名 スキースノーボ120名 無事故で無事実施できた。 東北大、スキースノーボは2年生の参加が少なく1年生が多かった。 充実した体験学習ができた。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">A</div>	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕活動は好天に恵まれ、全員参加・無事故で実施できた。 講演会で質問があった。 豪州海外研修は、2年連続で中止となった。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">C</div>	<ul style="list-style-type: none"> 委員会は改組した。福祉国際理解委員会、進路係を新設した。 新部長全員参加の下、宿泊研修が実施できた。 栃高評価 生徒58% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">B</div>
学校関係者評価	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動の活躍の様子はホームページにより知ることができる。学校が生き生きとしている様子だ。 なぜ16は「C」なのか？（豪州海外研修の2年連続中止を厳しく評価した。） 生徒会活動に関する評価58%が気になる。奉仕活動などPR活動をもっと積極的にやってもよい。 </div>			
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> クラス企画支援体制づくり。 文化講演会の充実。 本部企画の充実発展 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的で効果的・積極的な募集体制を整備し、実施する。 卒業生懇談会の充実発展。 	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕活動・講演会の事前指導の充実。 海外研修の内容日程等見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治委員会の効果的な運営。 委員会活動の計画化を図る。 生徒会執行部の指導力の育成。

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点目標	g 規範意識と自主性の向上		
重点課題	18 交通安全指導の充実と交通マナーの徹底	19 集団生活における規範意識の向上	20 情報マナーの向上
現状	・交通安全係の指導の下、生徒の交通委員会を中心に実施している。	・生活指導係を中心に、規範意識及びマナーの向上を訴えているが、徹底できていない。	・関係機関から送られてくる資料を基に、情報マナーの啓蒙に努めている。
達成目標	・雨天時の傘さし自転車運転及び道路通行中のヘッドフォン着用の撲滅。 ・交通無事故200日間の達成。	・制服着用マナーの向上（注意書発行枚数5枚以内） ・校内における物品及び金銭の紛失0件。	・校内における携帯電話の使用及び授業時の着信音の発生0件。 ・インターネットや携帯電話の使用に関わる問題行動の発生0件。
具体的な取り組み	・交通委員会を中心とした、生徒の自発的な啓蒙活動。 ・JR栃木駅前を中心とした立哨指導。 ・定期的な自転車点検。 ・交通安全指導に関わる有効且つ実用的な情報の収集。 ・交通講話、LHR等を通しての、生命尊重の意識の醸成。	・服装のだらしない生徒には注意書を発行し、保護者も含めた指導を行う。 ・HRにおける貴重品袋活用の徹底と、生活指導係を中心とした校内巡回。 ・集団における自己の責任や役割を自覚させるため、学校行事や集会の有効活用する。	・生徒の校内への携帯電話持ち込みを禁止し、保護者に対して生徒の携帯電話に対してフィルタリングサービスを利用するよう促す。 ・集会時における生徒指導部長講話等において、インターネットや携帯電話に関わるトラブルの実例を紹介し、注意を喚起する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の件数は昨年より大幅に減少し、無事故210日間の達成することができた。 自転車の傘さし運転は激減したが、道路通行中のヘッドフォン着用はまだ指導の余地がある。 学校評価 生徒評価=75% 1年(75)2年(71)3年(79) 保護者評価 = 80% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin-left: auto;">A</div>	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に学生服の第一ボタンを閉めない生徒が多く、1名の生徒に注意書を発行した。 校内において金銭の紛失が1件発生した。 学校評価 生徒評価=77% 1年(82)2年(72)3年(76) 保護者評価 = 85% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin-left: auto;">B</div>	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験中の着信音発生2件、携帯電話のプロフにおける書き込みトラブル1件、いたずらメール1件が発生した。 栃高評価 生徒評価=50% 1年(59)2年(42)3年(47) 保護者評価 = 70% <div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 50px; margin-left: auto;">C</div>
学校関係者評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 情報マナーの生徒評価50%は、生徒はより徹底した指導を求めているのか？（日常的に厳しい指導は行っていないので、50%程度の数値となったが、決してより厳しい指導を求めているとは理解していない。） 修学旅行での生徒の団体行動の様子は？（指示の理解、集団行動など良くできていた。） 	
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに、交通安全指導は自己の生命の安全教育であると理解させる。 社会の一員であるという自覚と、交通ルール遵守の精神を身に付けさせるための指導を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解の下、団結して生徒の指導にあたる。 生徒一人ひとりに他者の権利を尊重することの大切さを理解させ、望ましい人間関係が築けるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットや携帯電話の危険性を理解させるための講演会やLHRを行う。 情報教育係と連携し、裏学校サイトや掲示板等の実態把握に努める。

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点目標	h 校内環境美化への積極的な取り組み	i 組織的な学校評価への取り組みと広報活動の充実		
重点課題	21 全員による清掃実施	22 学校評価の適切な運用	23 家庭および地域社会への積極的な情報の発信	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化委員会を開催し清掃活動の意義や重要性を知らせ、ほぼ毎日全員清掃を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの学校評価への取り組み方の根本的な手直しに着手した。 重点目標はほぼ昨年度のままで設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> P T Aだよりを2回発行。 5月のP T A総会で、生徒指導、進路指導の取り組みや現状について情報を提供。 P T A評議員会を4回開催し、進路関係を中心に適宜情報を提供。 中学校訪問時に学校案内作成配布。 学期毎に校報発行。・H P更新(随時) 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が分担区毎、月毎等目標を設定し清掃活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が組織的に取り組み、次年度の改善に繋がる実効性のある学校評価の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動について、地域社会に開かれた学校づくりの観点から、精選し分かり易い形で情報を提供する。 	
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 分担区の点検等を行い週単位月単位の清掃目標を設定する。 清掃用具の不足を補充する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい自己評価の進め方の確立。 自己評価表の作成 自己評価のための外部アンケートの導入(栃高評価/授業アンケート) 学校評価委員会の運営 学校関係者評価の実施と改善 評価結果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> 「P T Aだより」では学校行事の実施状況の報告を主眼とするが、保護者の意見・感想等も積極的に取り上げ、情報の双方向化を目指す。 「P T A評議員会」では、進路関係だけでなく、生徒指導、保健・体育関係、さらには学年等、諸係と連係して、本校の教育活動に関する情報を多方面から提供できるように努める。 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> 用具不足は解消されているが、担当教員に対し生徒数が多く活動状況を把握しきれない。 清掃活動の目標を設定することで真剣に、自主的に清掃活動に取り組む生徒が増加した。 栃高評価 生徒全体(62%) 1年(57)2年(62)3年(67) 保護者全体(84%) 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に各部、各学年で個々に評価をして済ませてきた従来の学校評価に比べ、学校全体で取り組む本来の学校評価の姿になってきた。 授業アンケートでは、マークカードを用いて実施したが、経費や時間面において課題が浮き彫りとなった。 学校評価の意義を含め、まだまだ共通理解が不十分であり、改善しなくてはならない点が多々ある。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月に「P T Aだより」本年度第1号を発行、第2号は3月に発行予定。 「P T A評議員会」は今年度既に3回開催、生徒指導、進路、保健厚生、学習各担当者から、現状報告及び取り組みについての説明等が行われた。 ホームページの更新を随時行い(年5回)情報発信を適宜行った。 栃高評価 評価 生徒全体 = 61% 保護者全体 = 86% 	
学校関係者評価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> よく生徒は校内美化活動を日常的に行っているようだ。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価の取り組みは、その手法も含めて良かったが、重点項目の絞り込みは次年度の課題。・この学校がいままで積み上げきたものを反省することを中心に、学校評価自身に先生方が振り回されないよう注意してほしい。 		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化委員会を活用し清掃状況等を定期的に点検する 	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標の精選化 評価項目および評価の観点の確立 授業アンケートの方法と活用の仕方の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信のさらなる工夫、改善を図る。 P T Aだよりの内容、構成にマンネリ化の傾向があるが、是正を図っていきたい。 	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった